

船と港から見た関東大震災

1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災は、東京・横浜を中心とした広い地域に大きな被害をもたらしました。横浜港では開港から60年余りをかけ築き上げてきた、大さん橋、新港ふ頭をはじめとした東洋一の近代的港湾設備が一瞬にして崩壊したのです。

一方、震災発生直後から、横浜港をはじめ各地の港は人命救助、救援物資輸送、避難の場としても使われ、商船、艦艇など多くの船舶が活躍しました。また、関東大震災は、横浜港、東京港、神戸港、清水港という主要港がその性格や設備を変化させるきっかけともなりました。

今回の企画展では、「船」と「港」という視点から関東大震災の被害と復興をとらえていきます。過去の災害に学び、現在の防災について“わがこと”として考えるきっかけになれば幸いです。



関東震災全地域鳥瞰図 1924(大正13)年 画:吉田初三郎 発行:大阪毎日新聞社
房総半島から東海地方までの広い範囲の被害が描かれる。図中央が横浜。海上には東京、横浜、清水を結ぶ白線が描かれ、避難や救援のための航路が表現されている



上左) 東洋汽船の貨客船これや丸 これや丸から、関西方面へ震災発生第一報となる電報が打たれた



上中) 戦艦山城 震災後すぐ、横浜で警備や棧橋の復旧工事、救援物資の輸送などを行った



上右) 大阪港で救援物資を積み込む特務艦室戸と大阪商船の貨客船あるたい丸
1923(大正12)年 大阪毎日新聞社 「大震災写真画報」第2集より



上空から見た横浜港の被災状況
1923(大正12)年 『関東震災地写真帖』より
新港ふ頭では上屋が焼け落ち、岸壁が崩れている。
大さん橋は一部を残して崩落した



大きな被害を受けた大さん橋周辺
1923(大正12)年 『関東震災地写真帖』より
左側の壊れた建物は税関監視部



新港ふ頭の岸壁復旧工事
1923~1924(大正12~13)年
横浜港の復旧工事は約2年という驚異的な速度で完成した



大横浜建設記念絵葉書 十年後の横浜港
1927(昭和2)年
震災からの復興を目指した「大横浜」建設計画が完了した場合の横浜港の姿。新しいふ頭や市営埋立地、大防波堤などが描かれている

表面の提灯は横浜港の復旧工事完成祝賀会で使われたもの



ガイドツアー なるほど!ミナト散歩 横浜港周辺の震災遺構をめぐる

博物館で学芸員の企画展展示解説を聞いた後、横浜シティガイドによる案内で横浜港周辺の関東大震災遺構を歩いてめぐります

共催 NPO法人 横浜シティガイド協会
日時 10月15日(日)、21日(土)、25日(水)
10:00~13:00
集合 横浜みなと博物館総合案内10時集合。
13時頃山下公園で解散予定
参加費 1,000円(企画展入館料、ガイド料等含む)
定員 各回20名
申込受付 9月1日(金)~(先着順)
申込方法 件名を「ミナト散歩参加申し込み」とし、参加を希望する日、参加者全員の住所、氏名、電話番号を明記の上、横浜みなと博物館(museum@nippon-maru.or.jp)までメールでお申し込みください。先着順のため定員に達し次第申し込みを締め切ります。
※今回お申しいただいた個人情報は当行事の運営以外の目的で使用することはありません



2館で学ぼう! よこはま防災クイズラリー

横浜みなと博物館・横浜市民防災センターの2館を見学してクイズに答えよう!

クイズ用紙は各館及び各館WEBで配布

日程 8月26日(土)~11月5日(日)



学芸員による展示解説

日時 9月10日(日)、10月22日(日)、11月5日(日)
各日2回(11:00~、14:00~)、1回45分程度
会場 横浜みなと博物館特別展示室
定員 各回15名程度/先着順
参加費 入館料 ※申込不要、当日特別展示室入口にお越しください。



防災啓発イベント 『関東大震災100年~今できること~』

日時 9月2日(土) 10:00~16:00(荒天中止)
会場 日本丸メモリアルパーク
主催 横浜市消防局・横浜市民防災センター



帆船日本丸総帆展帆

8月27日(日)、9月10日(日)、9月23日(土・祝)、10月9日(月・祝)、10月15日(日)、10月22日(日)、11月3日(金・祝)



〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-1-1
公益財団法人 帆船日本丸記念財団
TEL 045-221-0280 FAX 045-221-0277



<https://www.nippon-maru.or.jp/>



横浜みなと博物館
Yokohama Port Museum